

C-1

エスティオLC/ボンドウエルLCの臨床評価 —3年間経過観察—

○西田郁子、牧 憲司、森本彰子、酒匂賢一、
内上堀征人、木村光孝

九歯大・小児歯

【目的】コンポジットレジンとは、日常の小児歯科臨床で頻りに用いられる歯冠修復材であり、新しい材料が開発されている。当教室では、エスティオLC/ボンドウエルLCを乳前歯および乳臼歯修復に用い、1年間経過観察した結果、良好な経過を示したことを報告した。

今回は、乳前歯隣接面、乳臼歯咬合面修復後、3年間にわたる臨床成績について評価した。

【対象および方法】対象歯は、九州歯科大学附属病院小児歯科外来を受診した小児でC₂を有する乳前歯および乳臼歯に限定した。修復部位および症例数は、乳前歯隣接面23例、乳臼歯咬合面28例である。修復に際しては、GC社製光重合型コンポジットレジン「エスティオLC」、光重合型ボンディング材「ボンドウエルLC」を供した。

修復は通法に従い行い、リコール時に各修復歯に対して、辺縁適合性、耐摩耗性、歯髄反応、二次齲蝕、修復物の色調について検討し、総合的に予後観察を行い評価した。リコール期間は、修復後1か月、3か月、6か月、1年、1年半、2年、2年半、3年とした。

【結果】辺縁適合性、辺縁部の着色、二次齲蝕に関しては、ほぼ同様な経過を示し、90%以上の症例で良好であった。耐摩耗性に関しては、修復時と比較しほぼ同様な形態を示していた。修復物の色調に関しては、良好な経過を示した。歯髄反応に関しては、臨床的に不快感を示したものもみられたが、歯髄処置を要した症例は5%以下であった。

以上のように、3年間にわたる臨床成績についてみると、ほぼ良好な経過を示し、光重合型コンポジットレジン「エスティオLC」と光重合型ボンディング材「ボンドウエルLC」は乳前歯および乳臼歯の修復に有効であることが示唆された。

C-2

虚弱下顎骨におけるユニカルの及ぼす影響

秦 満、西田郁子、牧 憲司、木村光孝

九州歯科大学小児歯科学講座

【目的】骨の成長発育は、思春期に急激な発育がみられることからScammonの発育曲線の一般型に属している。一生の骨の60-70%は9歳頃までに作られるという報告や、最も骨成長率の高い時期は思春期であるという報告がある。今回はヒトの思春期に相当する8週齢のラットを用い、骨虚弱状態を惹起させたのち、特にユニカルによる混合食を用いた食餌療法を行い、下顎骨の骨基質形成について検索したので報告する。

【材料ならびに方法】生後8週齢のWistar系雄ラット30匹を使用した。対照群：標準A配合飼料（オリエンタル酵母）と水道水で4週間、5週間、6週間飼育した。Ca欠乏食群：Ca欠乏飼料と蒸留水で3週間飼育し、骨虚弱状態を惹起させ、標準飼料に切り替えたものとユニカルによる混合飼料に切り替え水道水で1週間、2週間、3週間飼育した。低Ca欠乏食群：A食変型低Ca欠乏飼料と水道水で3週間飼育し、骨虚弱状態を惹起させ、標準飼料に切り替えたものとユニカルによる混合飼料に切り替え水道水で1週間、2週間、3週間飼育した。

【観察項目】体重、骨塩量、病理組織所見、走査電顕所見、血液検査。

【結果】観察項目から特に低Ca欠乏食群においてはユニカルによる混合食では下顎骨の舌側歯槽骨、中央側歯槽骨、頬側歯槽骨および唇側歯槽骨に至るまで対照群とほぼ同様に回復した骨基質形成の促進が明らかとなった。